

長野県主要農作物種子生産ビジョン

(長野県主要農作物種子生産実施計画)

将来にわたり、食を担う優良種子の安定供給のために

令和3年3月策定

長野県

「長野県主要農作物種子生産ビジョン」 目次

1 「長野県主要農作物種子生産ビジョン」の趣旨	1
(1) ビジョン策定の経過	
(2) ビジョンの役割	
(3) ビジョンの実施期間	
(4) ビジョンの進行管理	
2 主要農作物の種子生産をめぐる情勢と課題	
(1) 主要農作物の種子生産を取り巻く情勢	2
(2) 主要農作物の種子生産の現状と課題	3
(3) 品目別の生産状況	6
3 10年後の望ましい種子生産体制と種子場産地のあるべき姿	
(1) 作物別の品種構成	11
(2) 種子生産組織	12
(3) 米種子乾燥調製保管施設	13
(4) 種子の生産工程管理	13
(5) 指導体制と採種技術支援	13
(6) 種子産地の維持発展	13
4 産地別・品種別の種子生産計画	
(1) 水稲	14
(2) 麦類	16
(3) 大豆	17
(4) そば	18
5 あるべき姿を実現するための具体的な5年間の施策方針	
(1) 種子生産組織の強化	19
(2) 品質が保証された種子生産供給体制の構築	19
(3) 米種子乾燥調製保管施設の再編整備	20
(4) 種子生産技術の高位平準化の確立	20
(5) 新たな取組に対する指導体制の整備	20
6 ビジョン実現に向けた推進体制	20
(1) 関係機関の連携	
(2) それぞれの役割	
参考資料	
○ 長野県主要農作物及び伝統野菜等の種子に関する条例	23
○ J A別種子生産計画（4 産地別・品種別の種子生産計画をJ A別に整理）	26
○ 奨励品種等一覧	28

1 「長野県主要農作物種子生産ビジョン」の趣旨

(1) ビジョン策定の経過

主要農作物の種子生産については、これまで国民への食糧の安定供給を図ることを目的に昭和27年(1952年)に制定された「主要農作物種子法」により、国と都道府県が主導し、生産者団体等との連携・協力のもと、農業者へ優良な種子の安定供給に努めてきた。

近年においては、民間活力を活かした品種開発が求められたことから、国の規制改革により平成30年(2018年)4月1日に同法が廃止された。

このことにより、県内の稲作生産者や消費者などの多くの県民から主要農作物の種子生産に対する不安の声が寄せられたことから、県では、将来にわたって優良な主要農作物等の種子を安定的に供給していくという基本理念を掲げた「長野県主要農作物及び伝統野菜等の種子に関する条例」(以下「種子条例」という。)を制定し、令和2年(2020年)4月1日に施行した。

更に、「種子条例」の基本理念の実効確保を図るため、具体的な体制整備に向けた5年間の行動計画を示す「長野県主要農作物種子生産ビジョン」(以下「ビジョン」という。)を本年度において策定することとした。

(2) ビジョンの役割

種子条例の基本理念に基づき、10年後の種子生産体制のあるべき姿を明らかにし、その実現に向けて5年間に取り組む具体的な行動を示すもの。

なお、ビジョンに位置づける品目は、主要農作物の米、小麦、大麦、大豆、及びそばとする。

(3) ビジョンの実施期間

令和3年(2021年)4月から令和8年(2026年)3月までの5年間

(4) ビジョンの進行管理

「長野県主要農作物種子生産ビジョン検討会議」において、毎年、実需者ニーズや社会情勢の変化等を踏まえつつビジョンの点検・評価を実施し、その都度、必要な変更を行う。

特に、農業者や関係機関・団体など地域が一体となって進めている米の生産調整の取組状況をしっかりと確認するとともに、確認結果を次年産以降の種子生産計画に反映させる。

2 主要農作物の種子生産をめぐる情勢と課題

(1) 主要農作物の種子生産を取り巻く情勢

ア 人口減少社会への対応

本県の人口は、平成12年(2000年)の221万5千人をピークに減少に転じ、令和2年(2020年)12月では203万2千人となっており、当面は生産年齢人口を中心に総人口の急激な減少が続き、10年後の令和12年(2030年)には約190万人と予想されているため、種子の生産計画の策定にあたっては、将来的な消費量を予測する必要がある。

イ 県民の期待

県民の食生活を支える安全安心な農産物の安定供給のためには、品質が保証された優良な種子を生産者に提供することが極めて重要であり、種子条例制定の背景には、県が主体的に優良な種子生産に関わるよう生産者のみならず多くの県民から声が寄せられたことによる。

ウ 消費者の食の多様化への対応

これまでの主要農作物の生産は、栽培しやすさや収量性など生産者側に重きを置いてきたが、近年の消費者の食味や機能性への意識の高まりや、業務用や加工用途に応じた品種選定など消費者・実需者ニーズに対して的確な対応が求められている。

エ 種子生産県の二極化

主要農作物種子法の廃止に伴い、種子を他県からの供給に切り替えて種子場産地が縮小される県と、本県のように種子の自給と他県への供給を進めて産地が維持または拡大する県の二極化が進むと予想される。

このため、種子生産を維持・拡大する種子場産地では、種子生産組織や生産者の所得向上による経営安定を図るため、県外への新たな販路開拓を視野に入れる必要がある。

オ SDGs(持続可能な開発目標)への対応

2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の掲げる目標のうち「2 飢餓をなくそう」のターゲット2.5で「2020年までに、国、地域及び国際レベルで適正に管理及び多様化された種子・植物バンクなども通じて、種子、栽培植物、飼育・家畜化された動物及びこれらの近縁野生種の遺伝的多様性を維持し、国際的合意に基づき、遺伝資源及びこれに関連する伝統的な知識へのアクセス及びその利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分を促進する。」としており、本県における遺伝資源としての多様な原種(原々種)の維持、一般種子の生産供給管理や種子生産技術の普及・継承などを進める必要がある。

また、種子生産による種子場産地の雇用創出や、新たな品種開発と種子生産技術の革新などを念頭に置き、SDGsの目標の具現化をめざす必要がある。



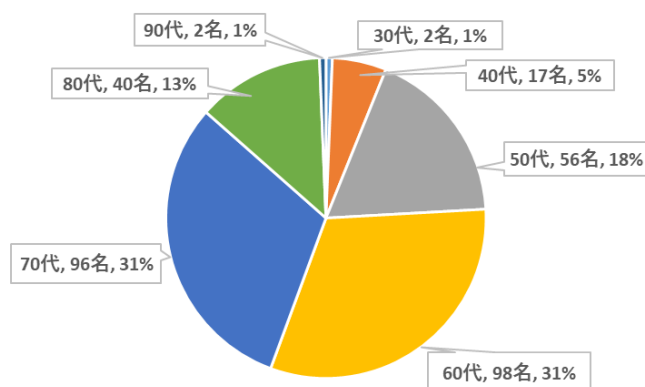
(2) 主要農作物の種子生産の現状と課題

ア 種子生産者の高齢化と後継者不足

種子生産者を実施したアンケート結果によると、生産者の平均年齢は67.1歳で、全ての種子産地において高齢化が進んでいるとともに、「後継者がいない」と回答した生産者が約半数を占め、後継者不足も深刻化している。

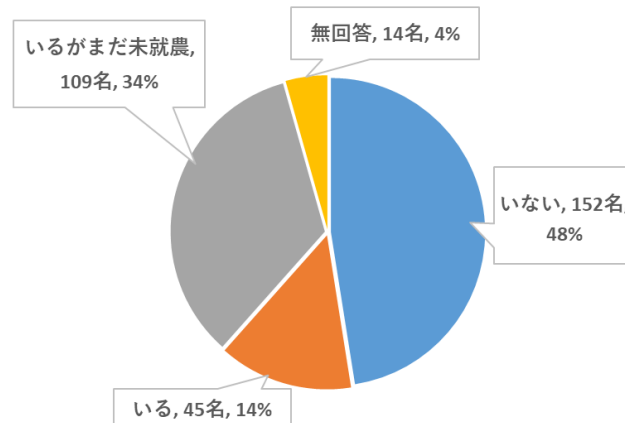
このままの状況が続けば、種子場産地の維持そのものが困難となることが予想される。

種子生産者の年齢構成



種子生産者(水稲、麦、大豆、そば)の年齢構成
(有効回答数:311)

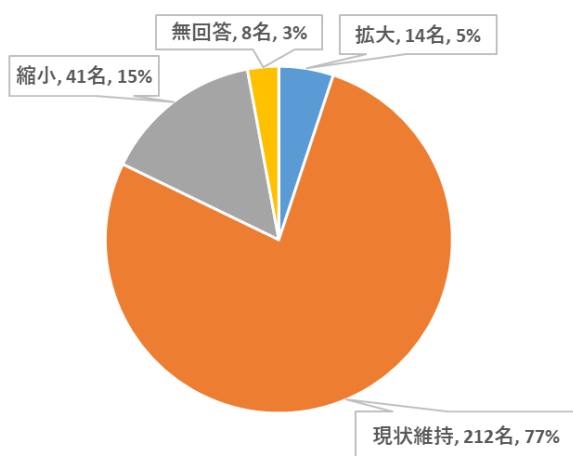
後継者はいますか



種子生産者(水稲、麦、大豆、そば)の後継者の有無
(有効回答数:320)

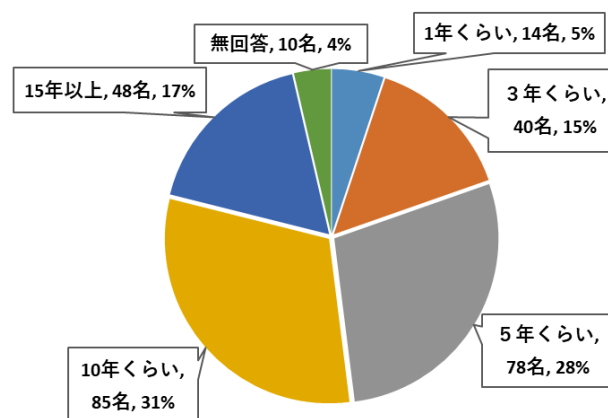
一方、水稲の種子生産規模に関しては、生産者の約8割が概ね5年後も「現状維持」としているが、種子生産に取り組むことができる年数では、5年以下と回答した生産者が約5割で、この5年間での対策が急務である。

今後(概ね5年後)の種子生産規模をどうしたいですか



水稲種子生産者の今後の意向
(有効回答数:275)

あと何年位、種子生産に取り組めますか

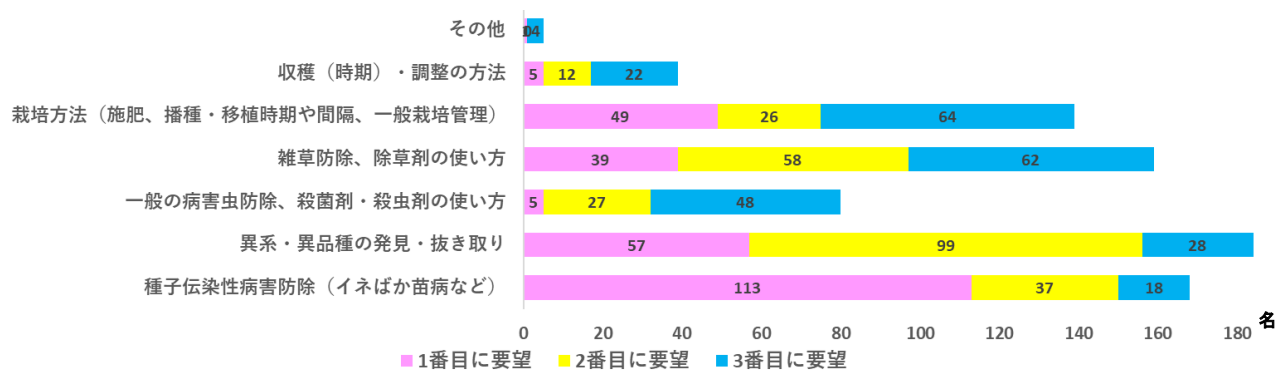


水稲種子生産者の今後の取組年数
(有効回答数:275)

イ 種子生産者間の採種技術の格差

種子生産は、一般栽培に比べ高度な技術と特別な知識が求められるが、生産者間で技術レベルに格差があることから、生産した全ての種子が「合格種子」とはなっていない。

特に種子生産者からは基本栽培技術のほかに、イネばか苗病など「種子伝染性病害の防除」、品種形質維持のための「異系・異品種の排除」、雑草種子等異物混入対策として「採種ほ場の雑草防除」に対する高い技術習得が求められている。



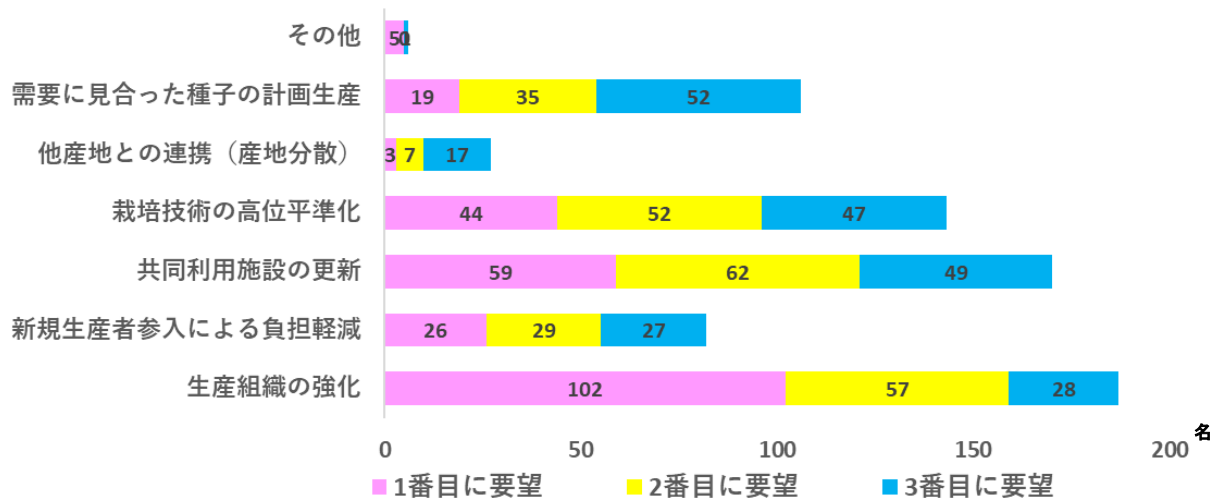
水稻種子生産者の栽培技術支援に対する要望

ウ 種子生産施設の老朽化

既存の種子生産施設の多くで老朽化が進行しており、特に水稻の乾燥調製施設は 1970 年代に建設されたものが多く、建屋の雨漏りや機械の故障などの不具合が生じており、乾燥調製の効率が低下しているとともに、品質への影響が懸念される。

エ 種子場産地の脆弱化

種子場産地では、今後、ベテラン生産者の引退により、これまでの生産規模の維持が困難になることが予測され、早期の生産組織の育成強化が求められている。



水稻種子生産者の産地維持のための取組事項に対する要望

オ 種子場産地の偏重

生産する品目によっては一つの種子場産地に偏っており、特に大豆は一つの産地に偏重しているなど、気象災害等による作柄不良により計画した種子量の確保ができないことが想定される。

カ 種子生産工程管理の早急な整備

異種混入などの種子事故の防止など、生産から品質管理、保管までの工程を体系的にチェックする体制と指導監督体制の確立が急務となっている。

また、農業農村支援センターにおける新たな種子審査員に対して、今まで以上に体系的に知識や技術習得を図る指導体制を整備する必要がある。

キ 需要に応じた計画的な品種開発と種子生産

実需からは消費ニーズに応じた品種開発が強く望まれており、農業試験場（水稻、麦類）及び野菜花き試験場（大豆、そば）において、これまで以上に短期間での品種化と生産現場への普及を進める必要がある。

(3) 品目別の生産状況

ア 品目別の生産状況

(単位: ha、10a/kg、t)

区分	H22 年産			H27 年産			R元年産		
	作付面積	単収	生産量	作付面積	単収	生産量	作付面積	単収	生産量
米	34,600	612	211,800	33,200	604	200,500	32,000	620	198,400
小麦	1,970	289	5,690	2,250	328	7,380	2,240	306	6,850
大麦	441	367	1,620	495	378	1,870	570	405	2,310
大豆	2,370	145	3,440	2,120	167	3,540	2,030	140	2,840
そば	2,960	75	2,220	3,970	59	2,340	4,410	76	3,350

出典: 農林水産省調べ

イ 水稻種子の生産状況

令和2年(2020年)産の作付面積は31,800haで、消費者の食の多様化などによる消費量の減少から生産は過剰傾向となっており、需要に応じた適正生産が求められている。

近年では、「つきあかり」など業務用の多収系品種の作付けが増加しており、産地品種銘柄として設定されるなど水稻銘柄品種の多様化が進みつつある。

県内の水稻種子は、主食用うるち米で9品種、酒造好適米で5品種、もち用で4品種が生産・供給されている。「風さやか」など需要のある品種は供給量が増加しているものの、全体的には作付面積の減少により供給量は減少している。

<水稻種子の県内への供給実績>

供給年は生産年の翌年、単位: kg、%

種子年産 品種名	H27 年産	H28 年産		H29 年産		H30 年産		R 元年産		
	供給量	供給量	前年比	供給量	前年比	供給量	前年比	供給量	前年比	
うるち米	コシヒカリ	730,632	722,236	98.9	699,812	96.9	689,952	98.6	689,472	99.9
	あきたこまち	111,016	105,684	95.2	101,672	96.2	99,320	97.7	95,128	95.8
	風さやか	33,400	34,900	104.5	42,536	121.9	51,760	121.7	51,092	98.7
	ひとめぼれ	15,008	14,344	95.6	13,260	92.4	13,704	103.3	11,900	86.8
	天竜乙女	6,192	5,640	91.1	5,640	100.0	4,380	77.7	4,196	95.8
	ゆめしなの	3,676	3,412	92.8	3,104	91.0	2,952	95.1	2,644	89.6
	きらりん	2,260	1,748	77.3	1,396	79.9	1,616	115.8	1,008	62.4
	ふくおこし	6,520	6,848	105.0	6,776	98.9	6,740	99.5	6,720	99.7
	ミルクQueen	-	-	-	-	-	-	-	5,760	-
	小計	908,704	894,812	98.5	874,196	97.7	870,424	99.6	867,920	99.7
酒造好適米	美山錦	24,232	24,476	101.0	24,476	100.0	21,396	87.4	20,500	95.8
	しらかば錦	876	924	105.5	980	106.1	956	97.6	940	98.3
	ひとごち	8,232	9,208	111.9	8,052	87.4	8,520	105.8	8,492	99.7
	金紋錦	1,844	2,392	129.7	2,392	100.0	2,500	104.5	2,400	96.0
	山恵錦	-	-	-	520	-	1,268	243.8	1,644	129.7
	小計	35,184	37,000	105.2	36,420	98.4	34,640	95.1	33,976	98.1
もち米	もちひかり	15,072	15,392	102.1	13,544	88.0	12,204	90.1	11,708	95.9
	カグヤモチ	872	868	99.5	776	89.4	720	92.8	748	103.9
	モリモリモチ	5,804	5,700	98.2	5,264	92.4	5,268	100.1	4,936	93.7
	オラガモチ	1,228	1,168	95.1	748	64.0	640	85.6	480	75.0
	小計	22,976	23,128	100.7	20,332	87.9	18,832	92.6	17,872	94.9
合計	966,864	954,940	98.8	930,948	97.5	923,896	99.2	919,768	99.6	

<水稲採種ほ面積と農家数の状況>

単位:a、件

品種	JA	H30 年産		R 元年産		R2 年産		R2/H30 比		
		面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	
うるち米	コシヒカリ	佐久浅間	4,160	63	3,740	59	3,668	58	88.2	92.1
		上伊那	3,250	28	3,010	30	3,077	29	94.7	103.6
		みなみ信州	87	3	-	-	270	4	310.3	133.3
		松本ハイランド	2,276	28	2,333	29	2,167	27	95.2	96.4
		あづみ	2,135	14	2,054	14	1,777	12	83.2	85.7
		グリーン長野	4,914	99	4,868	98	4,604	92	93.7	92.9
		中野市	600	13	550	12	550	12	91.7	92.3
		ながの(みゆき)	758	21	409	14	156	8	20.6	38.1
	計	18,180	269	16,964	256	16,269	242	89.5	90.0	
	あきたこまち	長野八ヶ岳	84	2	176	4	258	5	307.1	250.0
		佐久浅間	490	10	440	9	428	9	87.3	90.0
		上伊那	350	3	320	3	368	3	105.1	100.0
		あづみ	458	4	380	3	383	3	83.6	75.0
		グリーン長野	942	21	851	21	778	19	82.6	90.5
		ながの(みゆき)	105	5	-	-	-	-	-	-
		計	2,429	45	2,167	40	2,215	39	91.2	86.7
	ひとめぼれ	佐久浅間	100	1	100	1	110	1	110.0	100.0
		上伊那	300	4	150	2	188	2	62.7	50.0
		計	400	5	250	3	298	3	74.5	60.0
	ゆめしなの	長野八ヶ岳	130	2	90	1	80	1	61.5	50.0
	きらりん	長野八ヶ岳	100	2	70	1	57	1	57.0	50.0
	天竜乙女	みなみ信州	128	2	146	2	78	1	60.9	50.0
	ふくおこし	松本ハイランド	137	4	137	4	137	4	100.0	100.0
	風さやか	みなみ信州	783	13	859	16	447	9	57.1	69.2
		あづみ	-	-	-	-	296	5	-	-
		ながの(みゆき)	-	-	358	10	626	14	-	-
		計	783	13	1,217	26	1,369	28	174.8	215.4
	ミルクQueen	あづみ	-	-	141	2	151	2	-	-
	酒造好適米	美山錦	あづみ	683	4	683	4	520	4	76.1
グリーン長野			200	2	194	2	194	2	97.0	100.0
計			883	6	877	6	714	6	80.9	100.0
ひとごこち		佐久浅間	50	1	-	-	-	-	-	-
		グリーン長野	174	6	200	6	195	6	112.1	100.0
		計	224	7	200	6	195	6	87.1	85.7
しらかば錦		佐久浅間	20	1	20	1	20	1	100.0	100.0
金紋錦		ながの(みゆき)	48	1	48	1	48	1	100.0	100.0
山恵錦		佐久浅間	-	-	50	1	49	1	-	-
もち米		もちひかり	松本ハイランド	303	8	303	8	303	8	100.0
	上伊那		100	1	-	-	-	-	-	-
	計		403	9	303	8	303	8	75.2	88.9
	モリモリモチ	みなみ信州	135	1	139	1	82	1	60.7	100.0
	カゲヤモチ	長野八ヶ岳	147	3	97	2	47	1	32.0	33.3
オラガモチ	長野八ヶ岳	49	1	50	1	-	-	-	-	
うるち	9JA	22,287	342	21,182	335	20,654	321	92.7	93.9	
	酒造好適米	4JA	1,175	15	1,195	15	1,026	15	87.3	100.0
	もち	4JA	734	14	589	12	432	10	58.9	71.4
	合計	9JA	24,196	371	22,967	362	22,112	346	91.4	93.3

ウ 麦類種子の生産状況

令和元年（2019年）産の作付面積は大麦 570ha、小麦 2,240ha で、小麦は横ばい傾向だが大麦は機能性が高い「ホワイトファイバー」などの糯性品種の作付けが増加している。

小麦は、実需者からパン・中華麺用の硬質小麦の増産とタンパク含量等の基準値確保など均質化に対して強い要望がある。

また、製麺後の色相劣化で問題のある「ゆめきらり」を「東山 55 号（しろゆたか）」に、播性が低く凍霜害の影響を受けやすい「ハナマンテン」を「東山 53 号（ハナチカラ）」にそれぞれ令和 5 年（2023 年）産から転換すべく関係者で合意した。

県内の種子供給実績は、大麦で 3 品種、小麦で 6 品種が供給されている。

<麦類種子の県内への供給実績>

供給年は生産年の翌年、単位:kg、%

種子年産 品種名	H27 年産			H28 年産		H29 年産		H30 年産		R 元年産	
	供給量	供給量	前年比	供給量	前年比	供給量	前年比	供給量	前年比	供給量	前年比
シュンライ	1,5875	2,975	18.7	3,650	122.7	3,850	105.5	4,750	123.4		
ファイバースノウ	18,450	17,425	94.4	19,200	110.2	20,725	107.9	19,300	93.1		
ホワイトファイバー	-	15,125	-	16,875	111.6	16,850	99.9	16,400	97.3		
大麦計	34,325	35,525	103.5	39,725	111.8	41,425	104.3	40,450	97.6		
シラネコムギ	23,040	18,990	82.4	19,710	103.8	19,170	97.3	19,620	102.3		
しゅんよう	35,970	37,470	104.2	38,610	103.0	37,320	96.7	38,340	102.7		
ユメセイキ	18,840	18,180	96.5	18,840	103.6	18,810	99.8	18,450	98.1		
ゆめきらり	41,700	42,540	102.0	42,180	99.2	38,340	90.9	41,520	108.3		
ハナマンテン	29,700	26,160	88.1	27,450	104.9	26,130	95.2	27,450	105.1		
ゆめかおり	16,380	15,360	93.8	15,600	101.6	13,140	84.2	16,800	127.9		
小麦計	165,630	158,700	95.8	162,390	102.3	152,910	94.2	162,180	106.1		
麦類計	199,955	194,225	97.1	202,115	104.1	194,335	96.2	202,630	104.3		

<麦類採種ほ面積と農家数の状況>

単位:a、件

品種	JA	H30 年産		R 元年産		R2 年産		R2/H30 比	
		面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数
シュンライ	ながの(ちくま)	1,393	7	1,239	7	1,497	7	107.5	700.0
ホワイトファイバー	松本ハイランド	985	1	613	1	669	1	67.9	100.0
ファイバースノウ	上伊那	610	1	700	1	714	1	117.0	100.0
大麦計	3JA	2,988	3	2,552	9	2,880	9	96.4	300.0
ユメセイキ	ながの(ちくま)	371	1	323	2	263	1	71.0	100.0
しゅんよう	佐久浅間	1,150	9	1,150	9	1,150	8	100.0	88.9
シラネコムギ	信州うえだ	732	1	623	1	927	1	126.6	100.0
ゆめきらり	松本ハイランド	1,205	1	1,149	4	1,172	6	97.2	600.0
ゆめかおり	松本ハイランド	556	1	634	1	753	1	135.5	100.0
ハナマンテン	上伊那	992	2	960	2	1,075	2	108.3	100.0
小麦計	5JA	5,006	15	4,838	19	5,340	19	106.7	126.7
合計	5JA	7,994	18	7,390	28	8,220	28	102.8	155.6

エ 大豆種子の生産状況

令和元年（2019年）産の大豆作付面積は2,030haで、麦後大豆での播種遅れによる収量低下や天候等の影響による生産量の年次変動が大きいことなどから作付けは減少している。

栽培面では、帰化アサガオ類やアレチウリなど難防除雑草の発生が問題となっている。

実需者からは「ナカセンナリ」など主要品種の安定供給が強く望まれており、生産量の確保に向けた取組と団地化による効率的生産が必要となっている。

県内の種子供給実績は、5品種が生産・供給されている。

<大豆種子の県内への供給実績>

供給年は生産年の翌年、単位:kg、%

種子年産 品種名	H27年産	H28年産		H29年産		H30年産		R元年産	
	供給量	供給量	前年比	供給量	前年比	供給量	前年比	供給量	前年比
ナカセンナリ	42,300	45,360	107.2	48,600	107.1	48,980	100.8	47,140	96.2
ギンレイ	4,200	4,520	107.6	4,600	101.8	4,560	99.1	4,340	95.6
すずろまん	580	870	150.0	510	58.6	350	68.6	400	114.3
つぶほまれ	5,450	4,170	76.5	3,340	80.1	5,500	164.7	3,990	72.5
すずほまれ	12,060	9,480	78.6	7,920	83.5	8,240	104.0	7,690	93.3
合計	64,590	64,400	99.7	64,970	100.9	67,630	104.1	63,560	94.0

<大豆採種ほ面積と農家数の状況>

単位:a、件

品種	JA	H30年産		R元年産		R2年産		R2/H30比	
		面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数
ナカセンナリ	信州うえだ	2,634	23	2,735	49	2,801	30	106.3	130.4
	グリーン長野	89	3	35	3	40	3	44.9	100.0
	ながの(ながの)	33	1	33	1	33	1	100.0	100.0
	計	2,756	27	2,803	53	2,874	34	104.3	125.9
すずろまん	上伊那	27	1	39	1	28	1	103.7	100.0
つぶほまれ	上伊那	27	1	48	1	62	1	229.3	100.0
	松本ハイランド	302	1	242	1	321	1	106.4	100.0
	計	329	2	290	2	383	2	116.5	100.0
すずほまれ	信州うえだ	700	54	522	37	729	49	104.2	90.7
ギンレイ	信州うえだ	349	2	302	1	301	1	86.1	50.0
合計	5 JA	4,161	86	3,955	94	4,315	87	103.7	101.2

オ そば種子の生産状況

令和元年（2019年）産のそばの作付面積は4,410haで、地域特産品としての作付けや省力的な水田転換作物として作付けが増加しているが、天候等の影響により生産量の年次変動が大きく、基本技術の徹底による安定生産と品質向上が必要となっている。

令和2年（2020年）産にあつては、コロナ禍の影響により観光や飲食店等の需要が激減したことから、価格が低迷している。

「信州ひすいそば」の原料として供給されている「長野S8号」は令和3年（2021年）産から耐倒伏性に優れた「桔梗11号（長野S11号）」へ順次転換を図ることとしている。

また、青木村では「タチアカネ」による地域振興を図っている。

県内のそばの種子供給実績は、4品種が生産・供給されている。

<そば種子の県内への供給実績>

供給年は生産年の翌年、単位:kg、%

種子年産 品種名	H27年産			H28年産		H29年産		H30年産		R元年産	
	供給量	供給量	前年比	供給量	前年比	供給量	前年比	供給量	前年比	供給量	前年比
しなの夏そば	2,025	2,318	114.4	2,475	106.8	2,588	68.2	2,228	132.0		
蕎麦信濃1号	13,680	16,448	120.2	20,948	127.4	15,345	73.3	15,300	99.7		
タチアカネ	923	990	107.3	1,350	136.4	1,148	85.0	720	62.7		
長野S8号	5,220	7,515	144.0	5,040	67.1	3,623	71.9	2,678	73.9		
合計	21,848	27,270	124.8	29,813	109.3	21,804	73.1	18,360	84.2		

<そば採種ほ面積と農家数の状況>

単位:a、件

品種	JA	H30年産		R元年産		R2年産		R2/H30比	
		面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数
しなの夏そば	上伊那	207	1	212	1	288	10	138.6	1000.0
蕎麦信濃1号	上伊那	2,134	1	1,497	1	1,325	1	62.1	100.0
	ながの(ちくま)	1,216	1	1,562	1	1,299	1	106.8	100.0
	計	3,350	2	3,059	2	2,624	2	78.3	100.0
タチアカネ	信州うえだ	250	11	250	11	250	11	100.0	100.0
長野S8号	佐久浅間	306	7	470	8	-	-	-	-
	信州諏訪	513	12	-	-	-	-	-	-
	塩尻市	532	2	145	1	-	-	-	-
	計	1,351	21	615	9	0	0	-	-
桔梗11号 (長野S11号)	佐久浅間	-	-	-	-	350	7	-	-
	信州諏訪	-	-	494	12	239	1	-	-
	塩尻市	-	-	-	-	521	14	-	-
	計	-	-	494	12	1110	22	-	-
合計	6 JA	5,158	35	4,629	35	4,271	45	82.8	128.6

3 10年後の望ましい種子生産供給体制と種子場産地のあるべき姿

(1) 作物別の品種構成

県内の主要農作物の品種別の需要に応じた適正生産を図るため、消費者・実需者ニーズが的確に把握され、必要な品種の適正な種子量が計画的に確保されている。

また、種子場産地の維持・発展のため、県外へ提供する種子の生産が行われている。

<将来的な主要農作物の品種別生産見通し>

単位:ha、%

品目・品種	生産の方向性	R元年産 (2019年産)	R7年産 (2025年産)	R12年産 (2030年産)	R元/R12
水稻		ha	ha	ha	%
コシヒカリ	需要に応じた適正生産により作付減	24,432	23,700	22,700	92.9
あきたこまち	「つきあかり」等への一部転換による作付減	3,393	2,800	2,400	70.7
風さやか	県外への販路拡大を視野に作付増	1,479	2,100	2,400	162.3
ひとめぼれ	「つきあかり」等に転換	405	100	40	9.9
天童乙女	需要を考慮しつつ、作付維持	133	120	100	75.2
キヌヒカリ	需要を考慮しつつ「風さやか」への転換による	98	40	30	30.6
ゆめしなの	将来的に早生の新品種に転換	61	50	0	0.0
きらりん	将来的に早生の新品種に転換	40	20	0	0.0
ふくおこし	一定の需要がある飼料用米として現状維持	40	40	40	100.0
つきあかり	「ひとめぼれ」等からの転換による作付増	100	400	800	800.0
ミルクQueen	一定の需要があることから現状維持	190	180	180	94.7
その他うるち米	地域需要があることから作付増	110	120	140	127.3
美山錦	需要に応じた適正生産により作付減	633	450	400	63.2
ひとごち	需要に応じた適正生産により作付減	227	150	140	61.7
金紋錦	需要に応じた適正生産により作付減	67	40	40	59.7
山恵錦	新品種としての需要があることから作付増	36	100	150	416.7
しらかば錦	「山恵錦」に転換	32	0	0	0.0
その他酒造好適米	県育成の新品種への転換による作付増	6	10	20	333.3
もちひかり	需要に応じた適正生産により作付減	381	360	325	85.3
モリモリモチ	需要に応じた適正生産により作付減	91	80	60	65.9
カグヤモチ	高冷地向け品種として現状維持	18	35	30	166.7
オラガモチ	「カグヤモチ」等に転換	23	0	0	0.0
その他もち米	一定の需要があることから現状維持	5	5	5	100.0
水稻計		32,000	30,900	30,000	93.8
大麦		ha	ha	ha	%
シュンライ	一定の需要があることから現状維持	84	90	90	107.1
ファイバースノウ	一定の需要があることから現状維持	297	300	300	101.0
ホワイトファイバー	一定の需要があることから作付増	189	210	220	116.4
大麦計		570	600	610	107.0
小麦		ha	ha	ha	%
しゅんよう	一定の需要があることから現状維持	456	430	440	96.5
シラネコムギ	「東山55号」に転換	416	0	0	0.0
ユメセイキ	一定の需要があることから現状維持	239	190	200	83.7
ゆめきらり	「東山55号」に転換	493	0	0	0.0
東山55号(しろゆたか)	「ゆめきらり」等からの転換による作付増	0	600	620	-
ハナマンテン	「東山53号」に転換	408	0	0	0.0
ゆめかおり	需要があることから作付増	186	650	670	360.2
東山53号(ハナチカラ)	「ハナマンテン」からの転換による作付増	0	510	550	-
その他	主要品種への転換推進による作付減	42	20	20	47.6
小麦計		2,240	2,400	2,500	111.6

品目・品種	生産の方向性	R元年産 (2019年産)	R7年産 (2025年産)	R12年産 (2030年産)	R元/R12
大豆		ha	ha	ha	%
ナカセンナリ	需要があることから作付増	1,403	1,500	1,500	106.9
すずほまれ	「東山231号(すずみのり)」に転換	225	0	0	0.0
東山231号(すずみのり)	「すずほまれ」等からの転換による作付増	0	360	700	-
ギンレイ	需要に応じた適正生産により作付減	137	120	70	51.1
つぶほまれ	需要に応じた適正生産により作付減	72	50	30	41.7
すずろまん	一定の需要があることから現状維持	20	20	20	100.0
その他	主要品種への転換推進による作付減	173	150	80	46.2
	大豆計	2,030	2,200	2,400	118.2
そば		ha	ha	ha	%
蕎麦信濃1号	一定の需要があることから現状維持	3,186	3,200	3,200	100.4
しなの夏そば	一定の需要があることから現状維持	422	420	420	99.5
タチアカネ	一部地域で特定需要があることから現状維持	82	90	90	109.8
長野S8号	「桔梗11号(長野S11号)」に転換	90	0	0	0.0
桔梗11号(長野S11号)	「長野S8号」からの転換による作付増	0	170	180	-
在来系統	地域需要があることから現状維持	290	290	290	100.0
その他	「キタワセ」など地域需要があることから現状維持	340	330	320	94.1
	そば計	4,410	4,500	4,500	102.0

(2) 種子生産組織

組織の中心的な生産者たちがリーダーとなって、法人化や協業化、個人所有機械の共同利用など組織強化が図られ、組織による種子生産体制が構築されている。

種子生産者の親元就農による後継者の確保・育成のほか、地域内の定年帰農者や女性農業者など多様な人材が組織に関わり、それぞれが出番と役割をもって種子生産と組織運営にあたっている。

ア 構成員等

- ◇ 組織の中心的生産者・・・組織運営のリーダーとして活躍している。
- ◇ 種子生産者・・・組織運営と種子生産に積極的に協力し、種子場産地の維持発展に貢献している。
- ◇ 高齢種子生産者・・・これまでの経験により培った高度な栽培技術を組織構成員に広く伝承するなど人材育成に貢献している。
- ◇ 定年帰農者・・・種子生産の担い手として活躍しているとともに、これまでの社会経験の専門知識を活かして組織運営にも協力している。
- ◇ 女性農業者・・・種子生産の担い手として活躍しているとともに、女性ならではの視点などにより組織運営にも協力している。

イ 共同利用機械・施設

個人所有機械の整理・合理化が図られ、耐用年数があり、組織で利用できる機械は借上げまたは買上げにより共同利用され、個人所得の向上と組織の設備負担軽減の両面に貢献している。

また、必要な機械・施設は、国庫補助事業などにより導入・整備が図られ、効率的な生産体制が確立している。

(3) 種子の生産工程管理

種子生産者及び種子生産組織における生産から乾燥調製、保管までの生産工程管理（種子生産GAP）が徹底され、種子事故防止と品質管理体制が整っている。

また、種子審査員による適正な審査に加え、生産者団体と種子管理団体によるチェック機能の強化により、事故防止と品質が担保されている。

(4) 米種子乾燥調製施設

米種子の乾燥調製については、主要産地において大規模な調製保管施設が整備され、調製作業が集約して行われているとともに、品質の安定が確保された保管施設で一元的な管理がされている。また、必要なオペレーターが育成確保され、施設の効率的な利用が図られている。

現状(令和2年(2020年))

目標(令和7年(2025年))

※目標は、今後JA全農長野が策定する施設再編計画との整合性を図るものとする。

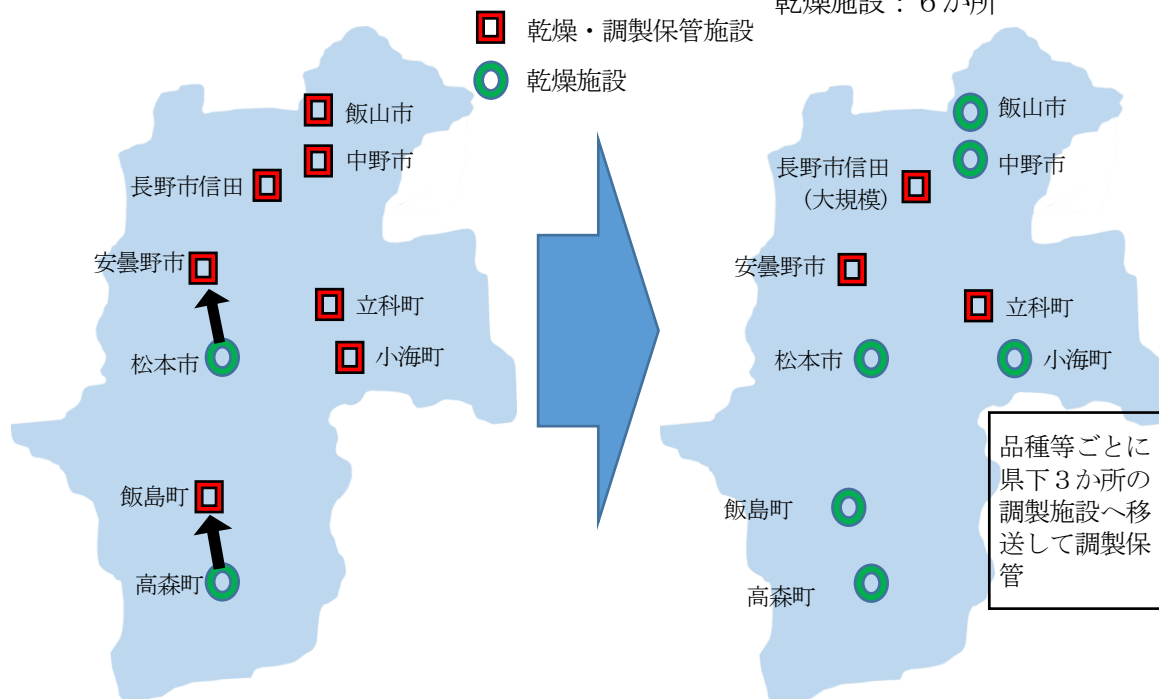
乾燥・調製保管施設：7か所

乾燥施設：2か所

大規模乾燥・調製保管施設：1所

乾燥・調製保管施設：2か所

乾燥施設：6か所



(5) 指導体制と採種技術支援

農業農村支援センター及び種子管理団体、生産者団体との連携・協調により、適時適切な指導が実施されているとともに、いつでもどこでも採種技術の確認ができる映像コンテンツが整備され、種子生産者の採種技術の向上と高位平準化により全量が合格種子となるなど高品質な種子生産が行われている。

(6) 種子場産地の維持発展

県外からの主要農作物種子の供給ニーズに応えた生産が行われており、種子生産県としての地位が確立しているとともに、種子場産地の維持・発展と種子生産組織等の収益の向上が図られている。

4 産地別・品種別の種子生産計画

(1) 水稲

需要に応じて採種量を調整し、各産地とも総採種規模は縮小する。種子産地により生産品種を特化する（長野八ヶ岳は高冷地向け早生品種、みなみ信州は晩生品種など）。

一産地あたりの生産品種は、可能な限り絞り込み、調製作業の効率化を図る。

<水稲の品種・産地別種子生産計画>

単位：a、kg

品種	JA	R元年設置計画		R6年設置計画(予測)		R11年設置計画(予測)		
		採種ほ面	採種量	採種ほ面	採種量	採種ほ面	採種量	
う る ち 米	コシヒカリ ※県外供給を見込む	佐久浅間	3,740	179,520	3,650	175,200	3,460	166,080
		上伊那	3,010	144,480	2,820	135,360	2,720	130,560
		松本ハイラン	1,840	88,320	1,760	84,500	1,700	81,400
		あづみ	1,680	80,640	1,920	92,160	1,800	86,400
		グリーン長野	4,080	195,840	4,020	192,960	3,920	188,160
		中野市	550	26,400	530	25,400	500	24,400
		ながの(みゆ)	400	19,200	0	0	0	0
		計	15,300	734,400	14,700	705,500	14,100	676,900
	供給量	R2年	719,500	R7年	675,500	R12年	647,000	
	あきたこまち	長野八ヶ岳	170	7,660	280	12,600	200	9,000
		佐久浅間	440	21,120	120	5,760	0	0
		上伊那	320	15,360	500	24,000	480	23,040
		あづみ	370	17,760	0	0	0	0
		グリーン長野	800	38,400	920	44,160	900	43,200
		計	2,100	100,300	1,820	87,360	1,580	75,840
		供給量	R2年	95,128	R7年	84,000	R12年	72,000
	ひとめぼれ	佐久浅間	100	4,800	0	0	0	0
		上伊那	150	7,200	0	0	0	0
		計	250	12,000	0	0	0	0
		供給量	R2年	11,900	R7年	0	R12年	0
	つきあかり	長野八ヶ岳	0	0	0	0	80	3,600
		佐久浅間	0	0	280	13,440	440	21,120
		計	0	0	280	13,440	520	24,960
		供給量	R2年	0	R7年	12,000	R12年	24,000
	ゆめしなの	長野八ヶ岳	80	2,960	30	1,440	0	0
		供給量	R2年	2,644	R7年	1,200	R12年	0
	きらりん	長野八ヶ岳	60	2,220	20	700	0	0
		供給量	R2年	1,540	R7年	600	R12年	0
天竜乙女	みなみ信州	100	4,800	80	3,840	70	3,360	
	供給量	R2年	4,196	R7年	3,600	R12年	3,000	
ふくおこし	松本ハイラン	140	6,720	140	6,720	140	6,720	
	供給量	R2年	6,784	R7年	6,600	R12年	6,600	
風さやか	みなみ信州	800	38,400	620	29,760	600	28,800	
	あづみ	0	0	80	3,840	280	13,440	
	ながの(みゆ)	350	16,800	700	33,600	690	33,120	
	計	1,150	55,200	1,400	67,200	1,570	75,360	
	供給量	R2年	51,092	R7年	63,000	R12年	72,000	
ミルクQueen	あづみ	120	5,760	120	5,760	120	5,760	
	供給量	R2年	5,760	R7年	5,400	R12年	5,400	

品種	JA	R 元年設置計画		R6年設置計画(予測)		R11 年設置計画(予測)			
		採種ほ面	採種量	採種ほ面	採種量	採種ほ面	採種量		
酒 造 好 適 米	美山錦 ※県外供給を 見込む	あづみ	500	24,000	300	14,400	270	12,960	
		グリーン長野	200	9,600	0	0	0	0	
		計	700	33,600	300	14,400	270	12,960	
		供給量	R2 年	28,840	R7 年	13,500	R12 年	12,000	
	ひとごち	グリーン長野	200	9,600	100	4,800	90	4,320	
		供給量	R2 年	8,440	R7 年	4,500	R12 年	4,200	
	しらかば錦	佐久浅間	20	960	0	0	0	0	
		供給量	R2 年	960	R7 年	0	R12 年	0	
	金紋錦	ながの(みゆ)	50	2,400	30	1,440	30	1,440	
		供給量	R2 年	2,400	R7 年	1,200	R12 年	1,200	
	山恵錦	佐久浅間	50	2,400	80	3,840	100	4,800	
		供給量	R2 年	1,644	R7 年	3,000	R12 年	4,500	
も ち 米	もちひかり	松本ハイラン	250	11,260	240	11,520	220	10,560	
		供給量	R2 年	11,708	R7 年	10,800	R12 年	9,750	
	モリモリモチ	みなみ信州	120	5,400	70	3,360	50	2,400	
		供給量	R2 年	4,936	R7 年	2,400	R12 年	1,800	
	カグヤモチ	長野八ヶ岳	50	1,800	40	1,600	30	1,200	
		供給量	R2 年	752	R7 年	1,050	R12 年	900	
	オラガモチ	長野八ヶ岳	50	1,800	0	0	0	0	
		供給量	R2 年	480	R7 年	0	R12 年	0	
	計	9 JA	20,790	993,580	19,450	932,920	18,890	906,580	
		JA 別計	長野八ヶ岳	410	16,440	370	17,180	310	14,640
			佐久浅間	4,350	208,800	4,060	194,880	3,960	190,120
			上伊那	3,480	167,040	3,360	161,280	3,260	156,460
みなみ信州			1,020	48,600	770	36,960	720	34,560	
松本ハイラン			2,230	106,300	2,140	102,740	2,060	98,680	
あづみ			2,670	128,160	2,460	118,000	2,480	119,000	
グリーン長野			5,280	253,440	5,030	241,440	4,880	234,160	
中野市			550	26,400	530	25,400	500	24,400	
ながの(みゆ)		800	38,400	730	35,040	720	34,560		

(2) 麦類

大麦は、県外需要が大きく、ホワイトファイバーなど増産見込みの品種もあるが、県内需要を優先して各産地の生産規模は現状維持とする。

小麦は実需の要望をふまえ各産地で増産、特に硬質系品種の「ゆめかおり」、「東山 53 号（ハナチカラ）」を主に採種ほ面積の拡大を図る。令和 3 年（令和 4 年産）から「東山 55 号（しろゆたか）」を信州うえだと松本ハイランド、「東山 53 号（ハナチカラ）」を上伊那で一般種子生産を開始する。

<麦類の品種・産地別種子生産計画>

単位：a、kg

品種	JA	R 元年設置計画		R6年設置計画(予測)		R11 年設置計画(予測)	
		採種ほ面積	採種量	採種ほ面積	採種量	採種ほ面積	採種量
大麦 シュンライ ※県外供給	ながの(ちくま)	1,200	54,000	1,200	54,000	1,200	54,000
	供給量	R2 年	50,600	R7 年	52,000	R12 年	52,000
ファイバー・スノウ ※県外供給	上伊那	700	31,500	700	31,500	700	31,500
	供給量	R2 年	36,250	R7 年	30,000	R12 年	0
ホワイトファイバー ※県外供給	松本ハイランド	600	27,000	600	27,000	600	27,000
	供給量	R2 年	36,375	R7 年	26,000	R12 年	26,000
小麦 ユメセイキ	ながの(ちくま)	540	18,900	460	16,170	480	16,800
	供給量	R2 年	18,450	R7 年	15,200	R12 年	16,000
しゅんよう ※県外供給	佐久浅間	1,150	34,500	1,200	36,000	1,300	37,500
	供給量	R2 年	38,370	R7 年	34,400	R12 年	35,200
シラネコムギ ※県外供給	信州うえだ	600	21,000	0	0	0	0
	供給量	R2 年	19,620	R7 年	0	R12 年	0
ゆめきらり	松本ハイランド	1,150	40,250	0	0	0	0
	供給量	R2 年	4,200	R7 年	0	R12 年	0
東山 55 号 (しろゆたか)	信州うえだ	0	0	750	26,250	800	28,000
	松本ハイランド	0	0	700	24,500	700	24,500
	計	0	0	1,450	50,750	1,500	52,500
	供給量	R2 年	0	R7 年	48,000	R12 年	49,600
ゆめかおり ※県外供給	松本ハイランド	620	21,720	1,550	54,250	1,600	56,000
	供給量	R2 年	24,540	R7 年	52,000	R12 年	53,600
ハナマンテン ※県外供給	上伊那	880	30,810	0	0	0	0
	供給量	R2 年		R7 年	0	R12 年	0
東山 53 号 (ハナチカラ)	上伊那	0	0	1,220	427,00	1,320	46,200
	供給量	R2 年	0	R7 年	40,800	R12 年	44,000
大麦	3 JA	2,500	112,500	2,500	112,500	2,500	112,500
小麦	5 JA	4,340	146,180	5,880	199,870	6,200	209,000
計	5 JA	6,840	258,680	8,380	312,370	8,700	321,500
JA 別計	佐久浅間	1,150	34,500	1,200	36,000	1,300	37,500
	信州うえだ	600	21,000	750	26,250	800	28,000
	上伊那	1,580	62,310	1,920	74,200	2,020	77,700
	松本ハイランド	2,370	88,970	2,850	105,750	2,900	107,500
	ながの(ちくま)	1,740	72,900	1,660	70,170	1,680	70,800

(3) 大豆

実需からの要望の強い「ナカセンナリ」、「東山 231 号 (すずみのり)」については増産する。

大豆の種子生産は「信州うえだ」に偏重しており、「ギンレイ」、「すずろまん」を上伊那、「つぶほまれ」を松本ハイランドで生産するよう配分する。

令和 4 年から、信州うえだで「東山 231 号 (すずみのり)」の一般種子生産を開始する。

<大豆の品種・産地別種子生産計画>

単位：a、kg

品種	JA	R 元年設置計画		R6年設置計画(予測)		R11 年設置計画(予測)	
		採種ほ面積	採種量	採種ほ面積	採種量	採種ほ面積	採種量
ナカセンナリ	信州うえだ	3,030	45,460	3,500	52,500	3,460	51,900
	上伊那	0	0	0	0	40	600
	グリーン長野	70	1,060	70	1,060	70	1,060
	ながの	30	460	30	460	30	460
	計	3,130	46,980	3,600	54,020	3,600	54,020
	供給量	R2 年	47,180	R7 年	52,500	R12 年	52,500
すずほまれ	信州うえだ	480	7,200	0	0	0	0
	供給量	R2 年	7,690	R7 年	0	R12 年	0
東山 231 号 (すずみのり)	信州うえだ	0	0	850	12,750	1,400	21,000
	供給量	R2 年	0	R7 年	12,000	R12 年	20,000
ギンレイ	信州うえだ	280	4,460	120	1,800	0	0
	上伊那	0	0	180	2,700	180	2,700
	計	280	4,200	300	4,500	180	2,700
	供給量	R2 年	4,560	R7 年	4,440	R12 年	2,590
つぶほまれ	上伊那	40	600	0	0	0	0
	松本ハイランド	220	3,300	200	3,000	160	2,400
	計	260	3,900	200	3,000	160	2,400
	供給量	R2 年	5,500	R7 年	2,500	R12 年	1,500
すずろまん	上伊那	50	760	30	450	30	450
	供給量	R2 年	400	R7 年	360	R12 年	360
計	5 JA	4,200	63,040	4,980	74,720	5,370	80,570
JA 別	信州うえだ	3,790	56,860	4,470	67,050	4,860	72,900
	上伊那	90	1,360	210	3,150	250	3,750
	松本ハイランド	220	3,300	200	3,000	160	2,400
	グリーン長野	70	1,060	70	1,060	70	1,060
	ながの(ながの)	30	460	30	460	30	460

(4) そば

「蕎麦信濃1号」、「しなの夏そば」、「タチアカネ」は需要を考慮しつつ、種子生産は現状維持とする。

信州ひすいそばの原料品種となる「長野S8号」は、令和3年から「桔梗11号(長野S11号)」へ転換し、ブランド化に向けた栽培面積拡大の取組を推進するため、既存産地の状況を考慮しつつ種子の増産を図る。

<そばの品種・産地別種子生産計画>

単位：a、kg

品種	JA	R元年設置計画		R6年設置計画(予測)		R11年設置計画(予測)	
		採種ほ面積	採種量	採種ほ面積	採種量	採種ほ面積	採種量
蕎麦信濃1号	上伊那	2,000	18,000	2,000	18,000	2,000	18,000
	ながの(ちくま)	1,200	5,400	1,200	5,400	1,200	5,400
	計	3,200	23,400	3,200	23,400	3,200	23,400
	供給量	R2年	15,300	R7年	19,200	R12年	19,200
しなの夏そば	上伊那	200	1,800	300	2,700	300	2,700
	供給量	R2年	2,588	R7年	2,520	R12年	2,520
タチアカネ	信州うえだ	250	1,755	250	1,760	250	1,760
	供給量	R2年	720	R7年	1,260	R12年	1,260
長野S8号	佐久浅間	400	2,202	0	0	0	0
	松本HL(塩尻市)	564	3,375	0	0	0	0
	計	964	5,577	0	0	0	0
	供給量	R2年	2,678	R7年	0	R12年	0
桔梗11号 (長野S11号)	佐久浅間	0	0	400	2,800	500	3,500
	信州諏訪	200	1,508	200	1,400	250	1,750
	松本HL(塩尻市)	0	0	500	3,500	450	3,150
	計	200	1,508	1,100	7,700	1,200	8,400
	供給量	R2年	810	R7年	6,800	R12年	7,200
計	6 JA	4,814	34,040	4,850	35,560	4,950	36,260
JA別	佐久浅間	400	2,202	400	2,800	500	3,500
	信州うえだ	250	1,755	250	1,760	250	1,760
	信州諏訪	200	1,508	200	1,400	250	1,750
	上伊那	2,200	19,800	2,300	20,700	2,300	20,700
	松本HL(塩尻市)	564	3,375	500	3,500	450	3,150
	ながの(ちくま)	1,200	5,400	1,200	5,400	1,200	5,400

5 あるべき姿を実現するための具体的な5年間の施策方針

(1) 種子生産組織の強化

ア 種子場産地強化計画の策定（R3年）

県農業農村支援センターや市町村、JA等の関係機関・団体と連携して、それぞれ種子場産地が抱える様々な課題を明らかにし、その解決に向けた対策を計画的に実践する「種子場産地強化計画」を策定する。

【種子場産地強化計画に記載する主な内容】

- ・産地の現状(生産者の状況、生産面積と生産量等)と課題
- ・当該産地が目指す10年後のあるべき姿
- ・10年後のあるべき姿を実現するための具体的な方策
 - ⇒ 組織強化に向けた考え方と具体的な取組方策
 - ⇒ 後継者の確保育成の考え方と具体的な取組方策(生産者数の目標等)
 - ⇒ 機械施設の整備、共同利用化など生産性向上に向けた考え方と具体的な取組方策等

イ 組織強化による生産体制の構築（R3～7年）

JA部会組織はあるものの、現状の種子生産は個人に委ねられていることが多く、生産者の高齢化、後継者不足、品質のバラつきなど個人の課題を解決するため、産地の種子生産に携わる者の役割分担による組織生産の体制を早期に構築する。

- ・専門技術員や農業農村支援センター等による組織強化に向けた研修会の実施
- ・法人による種子生産が行われている先進地視察の実施
- ・個人所有機械の把握調査の実施
- ・国庫及び県単事業による共同利用機械の導入

ウ 後継者の確保・育成（R3～7年）

種子生産の後継者については、一般栽培に比べ高度な技術と特別な知識に加え、栽培に多くの労力を要するという特殊性を考慮して、「種子場産地強化計画」において地域の実情に即して確保すべき後継者を明確にする。

明確にした後継者の確保策を生産組織が主体となってJAや農業農村支援センター等の関係機関の協力のもと体系的に進めるとともに、新たな後継者に対して計画的に講習などによる技術継承を実施する。

- ・定年帰農者など後継者となりうる潜在的な人材調査の実施（R3年）
- ・人材調査により後継者となりうる者への斡旋活動の実施（R3～7年）
- ・新たな後継者に対する体系的かつ計画的な技術継承の実施（R4～7年）

(2) 品質が保証された種子生産供給体制の構築（R3～4年）

採種用の原種供給から翌年の一般栽培用種子供給までの間における様々なリスクや全ての事故の可能性を予測し、その発生防止策を講じるとともに、種子生産に携わる全ての者が対応策を理解して、現場における実践を徹底する。

- ・種子生産現場における全てのリスクや事故の可能性の洗い出し
- ・洗い出されたリスク等を未然に防ぐための種子生産GAPの制定及び研修会の実施
- ・全ての種子生産者において種子生産GAPの実践
- ・農業農村支援センターと種子管理団体による種子生産GAPの実践確認
- ・JAによる種子生産GAPで定められたチェックリストの確認

(3) 米種子乾燥調製保管施設の再編整備 (R3~7年)

県下9地区にある施設について、将来的な種子生産見込みを予測し、費用対効果や利用料等を勘案して、調製保管施設の再編を実施するとともに、乾燥施設の補修を計画的に進める。

- ・国庫事業等を活用した大規模乾燥調製保管施設の整備 (R4年)
- ・国庫事業等を活用した乾燥調製保管施設の整備 (R4~7年)
- ・県単事業等による既存乾燥施設の補修整備 (R3~7年)

(4) 種子生産技術の高位平準化の確立 (R3~4年)

誰でも合格種子の生産ができるよう種子生産に携わる全ての者が地域に適した均一的な栽培技術の習得を図る。

- ・農業農村支援センターやJAによる作業ステージ別の技術講習会の実施
- ・指導的生産者など地域の高度な知識と生産技術を有する者による巡回指導の実施
- ・種子管理団体等における巡回指導の実施
- ・いつでもどこでも誰でも栽培技術が習得できる映像コンテンツの整備

(5) 新たな取組に対する指導体制の整備 (R3年)

県外からの種子供給ニーズに対応するため、県奨励品種等以外の品種生産に対する指導体制等を早期に確立する。

- ・種子管理団体やJA全農長野による県外の種子生産ニーズ把握方法の体系化
- ・県(試験場、農業農村支援センター)の関わり方の検討
- ・優良な種子生産に向けた指導体制の整備

6 ビジョン実現に向けた推進体制

(1) 関係機関の連携

ビジョン実現のために県、種子生産組織、生産者、種子管理団体、生産者団体等の関係機関・団体の連携・協調に努めるとともに、それぞれの役割を理解して、自主的な行動を展開するものとする。

また、定期的に種子関係者による情報交換を実施し、地域計画の進捗状況など関係者の情報共有を図るとともに、適宜必要な計画の見直しを行う。

(2) それぞれの役割

ア 種子生産者：生産組織

<行動指針>

生産者として主要農作物等の種子の適正な栽培を行い、優良な種子の生産に努める。

<取組項目>

- ・「種子場産地強化計画」を策定し、組織強化を図りつつ、計画的な後継者育成や施設整備など早期に計画の実行確保に努める。
- ・採種技術の高位平準化を早期に図り、全量合格種子となるよう種子品質の向上に努める。

イ 種子管理団体：(一社)長野県原種センター

<行動指針>

種子管理団体として、主要農作物の優良な種子の安定的な供給と種子の保存に努める。

<取組項目>

- ・需要動向の把握と「種子計画」策定による需要に見合った適正生産を進める。
- ・安定的に優良な原種の生産・供給を行う。
- ・適正な種子在庫に努めるとともに、備蓄種子の運用により、適正量の種子在庫に努める。
- ・産地間連携に係る種子の生産調整、情報交換等を行う。
- ・種子生産に係る品質管理と事故防止を図るため、種子生産者の指導監査を実施する。

ウ 種子生産関係団体：JA、JA全農長野

<行動指針>

種子生産関係団体として、県などの関係機関と連携して種子生産者に対する支援に努める。

<取組項目>

- ・「種子場産地強化計画」の策定と計画の実行確保の支援を行う。(JA)
- ・種子生産者の高品質な種子生産を図るため、適時適切な技術指導にあたりるとともに、必要な情報提供など各種支援を行う。(JA)
- ・種子生産に係る収益性を確認し、必要な改善に努める。(JA、JA全農長野)
- ・種子場産地の合意に基づく施設の再編計画の策定と進行管理に努める。(JA全農長野)
- ・再編計画に基づく施設整備を実施する。(JA)
- ・種子の需要数量の把握と円滑な供給に努める。(JA全農長野)

エ 県(農政部農業技術課、農業試験場、野菜花き試験場、農業農村支援センター)

<行動指針>

優良な主要農作物種子の安定した生産・供給の責任機関として、総合的かつ計画的な施策を実施し、種子条例の基本理念の実行確保に努める。

種子生産者、種子管理団体、種子生産関係団体との連携を図る。

<取組項目>

- ・ビジョン検討会議を運営しビジョンの進捗管理を行うとともに、種子関連対策事業の実施により「種子場産地強化計画」の実行支援を行う。(農業技術課)
- ・奨励品種の決定、優良な原原種の安定生産及び実需者ニーズに沿った有望系統の育成・品種開発、並びに種子伝染性病害対策に関する技術開発に努める。
(農業試験場、野菜花き試験場)
- ・「種子場産地強化計画」の策定及び実行確保に向けた支援と進捗管理を行う。
(農業農村支援センター)
- ・種子伝染性病害対策など生産者への技術指導、安全安心な種子確保のため、厳正な審査業務を行う。(農業農村支援センター)

参 考 资 料

長野県主要農作物及び伝統野菜等の種子に関する条例

(目的)

第1条 この条例は、主要農作物及び伝統野菜等（以下「主要農作物等」という。）の種子の生産等に関し、基本理念を定め、及び県の責務等を明らかにするとともに、県が実施する施策その他必要な事項を定めることにより、主要農作物等の優良な種子の安定的な供給を図り、もって本県の主要農作物等の品質の確保及び安定的な生産に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 主要農作物 稲、大麦、小麦、大豆及びそばをいう。
- (2) 伝統野菜等 県内において伝統的に生産されている野菜その他の農作物の品種であつて、当該品種の種子の生産を継続する必要があると知事が認めたものをいう。
- (3) 種子管理団体 第6条の規定により知事が指定する団体をいう。
- (4) 種子生産者 主要農作物又は伝統野菜等の種子を生産する者をいう。
- (5) 種子生産関係団体 主要農作物又は伝統野菜等の種子の生産に関係する団体をいう。

(基本理念)

第3条 主要農作物等の種子の生産は、優良な種子が主要農作物等の品質の確保及び安定的な生産のために欠くことのできない重要なものであるという認識の下に行われなければならない。

- 2 主要農作物等の種子の生産は、他の品種との交雑及び種子の流通の国際化により種子の供給が不安定になるおそれがあることに鑑み、優良な種子が消費者への安全で安心できる食料の安定的な供給に資するものであるという認識の下に行われなければならない。
- 3 主要農作物等の種子の生産は、県、種子管理団体、種子生産者及び種子生産関係団体の相互の連携の下に行われなければならない。

(県の責務)

第4条 県は、前条に定める基本理念（次条において「基本理念」という。）にのっとり、主要農作物等の種子の生産に関する総合的かつ計画的な施策を策定し、及び実施するものとする。

- 2 県は、前項の規定による施策の策定及び実施に当たっては、種子管理団体、種子生産者及び種子生産関係団体と連携を図るものとする。

(種子管理団体等の役割)

第5条 種子管理団体は、基本理念にのっとり、主要農作物の優良な種子の安定的な供給を行うものとする。

- 2 種子管理団体は、基本理念にのっとり、主要農作物等の種子の保存に努めるものとする。
- 3 種子生産者は、基本理念にのっとり、主要農作物等の種子の適正な栽培を行い、優良な種子の生産に努めるものとする。

4 種子生産関係団体は、基本理念にのっとり、県が実施する主要農作物等の種子の生産に関する施策に協力するとともに、種子生産者に対する支援に努めるものとする。

(種子管理団体の指定)

第6条 知事は、第8条並びに第9条第2項及び第3項に規定する業務を適正かつ確実に行うことができると認められる団体を種子管理団体として指定するものとする。

(奨励品種の決定)

第7条 知事は、県内に普及すべき主要農作物として生産を奨励する品種（以下「奨励品種」という。）を決定するものとする。

(種子計画の策定)

第8条 種子管理団体の長は、毎年度、奨励品種の種子の生産に関する計画（以下「種子計画」という。）を知事と協議して策定するものとする。

2 種子計画には、次に掲げる事項を定めるものとする。

(1) 奨励品種の種子の需給の見通し

(2) 奨励品種の種子の生産量

(3) 前2号に掲げるもののほか、奨励品種の種子の生産に関し必要な事項

(主要農作物の原原種、原種及び種子の生産等)

第9条 県は、種子計画に基づき、奨励品種の原種の生産に必要な原原種の生産、調達及び供給を行うものとする。

2 種子管理団体は、種子計画に基づき、奨励品種の種子の生産に必要な原種の生産、調達及び供給を行うものとする。

3 種子管理団体は、種子計画に基づき、奨励品種の種子の調達、需給の調整及び備蓄を行うものとする。

(種子生産ほ場の届出)

第10条 種子生産者（第8条第1項に規定する種子計画に基づき主要農作物の種子を生産する者に限る。次条及び第12条において同じ。）は、奨励品種の種子を生産するほ場（次条第1項各号において「種子生産ほ場」という。）を知事に届け出なければならない。

(ほ場審査及び生産物審査)

第11条 種子生産者は、奨励品種の種子の品質を保つため、次に掲げる審査を受けなければならない。

(1) ほ場審査（種子生産ほ場において栽培中の主要農作物の出穂、穂ぞろい、生育状況等について知事が行う審査をいう。）

(2) 生産物審査（種子生産ほ場において生産された主要農作物の種子の発芽の良否、不良な種子及び異物の混入状況等について知事が行う審査をいう。）

2 前項各号に掲げる審査（以下この条において「審査」という。）は、種子生産者からの請求により行うものとする。

3 知事は、前項の規定による請求があったときは、当該職員に審査を行わせるものとする。

4 審査の基準及び方法は、知事が定める。

5 知事は、審査の結果について、審査証明書を交付するものとする。

(主要農作物の種子の生産に係る支援)

第12条 県は、種子生産者及び種子生産関係団体に対し、主要農作物の優良な種子の生産のために必要な助言及び指導を行うものとする。

2 県は、次に掲げる事項について必要な施策を講ずるものとする。

- (1) 種子生産者の育成及び確保に関すること。
- (2) 奨励品種の採種の技術の継承に関すること。
- (3) 奨励品種の種子の生産の体制の整備に関すること。

(伝統野菜等の種子の生産等に係る支援)

第13条 県は、伝統野菜等について、その生産を将来にわたって行うことができるようにするため、採種の技術の指導その他の種子の安定的な生産のために必要な施策を講ずるとともに、品種の維持のための種子の保存に対する支援を行うものとする。

(財政上の措置)

第14条 県は、主要農作物等の優良な種子の生産及び安定的な供給に関する施策を推進するため、必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

(補則)

第15条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、知事が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、令和2年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際現に長野県主要農作物の種子生産に係る基本要綱(平成30年3月30日付け29農技第596号農政部長通知。次項において「基本要綱」という。)の規定に基づき策定されている計画は、第8条第1項の規定により策定された種子計画とみなす。
- 3 この条例の施行の際現にされている基本要綱の規定に基づく届出は、第10条の規定による届出とみなす。

長野県主要農作物種子生産ビジョン 4産地別・品種別の種子生産計画をJA別に整理

単位:a、kg

JA	品目	品種	R元年設置計画		R6年設置計画(予測)		R11年設置計画(予測)		
			採種ほ面積	採種量	採種ほ面積	採種量	採種ほ面積	採種量	
長野八ヶ岳	水稲	あきたこまち	170	7,660	280	12,600	200	9,000	
		つきあかり	0	0	0	0	80	3,600	
		ゆめしなの	80	2,960	30	1,440	0	0	
		きらりん	60	2,220	20	700	0	0	
		カグヤモチ	50	1,800	40	1,600	30	1,200	
		オラガモチ	50	1,800	0	0	0	0	
		計	410	16,440	370	16,340	310	13,800	
佐久浅間	水稲	コシヒカリ	3,740	179,520	3,650	175,200	3,460	166,080	
		あきたこまち	440	21,120	120	5,760	0	0	
		ひとめぼれ	100	4,800	0	0	0	0	
		つきあかり	0	0	280	13,440	440	21,120	
		しらかば錦	20	960	0	0	0	0	
		山恵錦	50	2,400	80	3,840	100	4,800	
		計	4,350	208,800	4,130	198,240	4,000	192,000	
	小麦	しゅんよう	1,150	34,500	1,200	36,000	1,300	37,500	
	そば	長野S8号	400	2,202	0	0	0	0	
		桔梗11号	0	0	400	2,800	500	3,500	
		計	400	2,202	400	2,800	500	3,500	
	信州うえだ	小麦	シラネコムギ	600	21,000	0	0	0	0
			東山55号	0	0	750	26,250	800	28,000
計			600	21,000	750	26,250	800	28,000	
大豆		ナカセンナリ	3,030	45,460	3,500	52,500	3,460	51,900	
		すずほまれ	480	7,200	0	0	0	0	
		東山231号	0	0	850	12,750	1,400	21,000	
		ギンレイ	280	4,460	120	1,800	0	0	
計		3,790	57,120	4,470	67,050	4,860	72,900		
そば		タチアカネ	250	1,755	250	1,760	250	1,760	
信州諏訪		そば	桔梗11号	200	1,508	200	1,400	250	1,750
上伊那	水稲	コシヒカリ	3,010	144,480	2,820	135,360	2,720	130,560	
		あきたこまち	320	15,360	500	24,000	480	23,040	
		ひとめぼれ	150	7,200	0	0	0	0	
		計	3,480	167,040	3,320	159,360	3,200	153,600	
	大麦	ファイバースノウ	700	31,500	700	31,500	700	31,500	
	小麦	ハナマンテン	880	30,810	0	0	0	0	
		東山53号	0	0	1,220	42,700	1,320	46,200	
		計	880	30,810	1,220	42,700	1,320	46,200	
	大豆	ナカセンナリ	0	0	0	0	40	600	
		ギンレイ	0	0	180	2,700	180	2,700	
		つぶほまれ	40	600	0	0	0	0	
		すずろまん	50	760	30	450	30	450	
		計	90	1,360	210	3,150	250	3,750	
	そば	蕎麦信濃1号	2,000	18,000	2,000	18,000	2,000	18,000	
		しなの夏そば	200	1,800	300	2,700	300	2,700	
		計	2,200	19,800	2,300	20,700	2,300	20,700	

単位:a、kg

J A	品目	品種	R 元年設置計画		R6年設置計画(予測)		R11 年設置計画(予測)	
			採種ほ面積	採種量	採種ほ面積	採種量	採種ほ面積	採種量
みなみ信州	水稲	天竜乙女	100	4,800	80	3,840	70	3,360
		風さやか	800	38,400	620	29,760	600	28,800
		モリモリモチ	120	5,400	70	3,360	50	2,400
		計	1,020	48,600	770	36,960	720	34,560
松本ハイランド	水稲	コシヒカリ	1,840	88,320	1,760	84,500	1,700	81,400
		ふくおこし	140	6,720	140	6,720	140	6,720
		もちひかり	250	11,260	240	11,520	220	10,560
		計	2,230	106,300	2,140	102,740	2,060	98,680
	大麦	ホワイトファイバー	600	27,000	600	27,000	600	27,000
	小麦	ゆめきらり	1,150	40,250	0	0	0	0
		東山 55 号	0	0	700	24,500	700	24,500
		ゆめかおり	620	21,720	1,550	54,250	1,600	56,000
		計	1,770	61,970	2,250	78,750	2,300	80,500
	大豆	つぶほまれ	220	3,300	200	3,000	160	2,400
(塩尻市)	そば	長野S8号	564	3,375	0	0	0	0
		桔梗 11 号	0	0	500	3,500	450	3,150
		計	564	3,375	500	3,500	450	3,150
あづみ	水稲	コシヒカリ	1,680	80,640	1,920	92,160	1,800	86,400
		あきたこまち	370	17,760	0	0	0	0
		風さやか	0	0	80	3,840	280	13,440
		シルキーQueen	120	5,760	120	5,760	120	5,760
		美山錦	500	24,000	300	14,400	270	12,960
		計	2,670	128,160	2,420	116,160	2,470	118,560
グリーン長野	水稲	コシヒカリ	4,080	195,840	4,020	192,960	3,920	188,160
		あきたこまち	800	38,400	920	44,160	900	43,200
		美山錦	200	9,600	0	0	0	0
		ひとごち	200	9,600	100	4,800	90	4,320
		計	5,280	253,440	5,040	241,920	4,910	235,680
	大豆	ナカセンナリ	70	1,060	70	1,060	70	1,060
中野市	水稲	コシヒカリ	550	26,400	530	25,400	500	24,400
ながの (みゆき)	水稲	コシヒカリ	400	19,200	0	0	0	0
		風さやか	350	16,800	700	33,600	690	33,120
		金紋錦	50	2,400	30	1,440	30	1,440
		計	800	38,400	730	35,040	720	34,560
ながの (ちくま)	大麦	シュンライ	1,200	54,000	1,200	54,000	1,200	54,000
	小麦	ユメセイキ	540	18,900	460	16,170	480	16,800
	そば	蕎麦信濃1号	1,200	5,400	1,200	5,400	1,200	5,400
ながの (ながの)	大豆	ナカセンナリ	30	460	30	460	30	460

令和3年度主要農作物等奨励品種等一覧

ア 水稻

種類・地域		区分		品 種 名	採 用 年 度 等
		奨励	認定		
うるち米	高冷地	○		きらりん	平成11年度～
		○		ゆめしなの	平成9年度～
	中間地	○		あきたこまち	認定品種 平成8年度～13年度 奨励品種 平成14年度～
		○		ひとめぼれ	認定品種 平成9年度～13年度 奨励品種 平成14年度～
		○		コシヒカリ	昭和53年度～
	低暖地		○	つきあかり	令和3年度～
		○		風さやか	平成28年度～
			○	キヌヒカリ	奨励品種 平成3年度～ 認定品種 平成28年度～
			○	天竜乙女	平成21年度～
	米粉等		○	ふくおこし	平成23年度～(中間地及び低暖地)
小計		6品種	4品種	10品種	
酒造好適米			○	しらかば錦	昭和58年度～
		○		美山錦	昭和53年度～
		○		ひとごち	平成10年度～
			○	金紋錦	昭和39年度～
			○	山恵錦	平成29年度～
小計		2品種	3品種	5品種	
もち米	高冷地	○		カグヤモチ	平成3年度～
	中間地	○		オラガモチ	平成13年度～
		○		もちひかり	昭和60年度～
	低暖地	○		モリモリモチ	平成12年度～
小計		4品種		4品種	
合計		12品種	7品種	19品種	

イ 麦類

種類	区分		品 種 名	採 用 年 度 等
	奨励	認定		
大麦	○		ファイバースノウ	平成 13 年度～
	○		ホワイトファイバー	平成 28 年度～
		○	シュンライ	奨励品種 平成2年度～ 認定品種 平成 28 年度～
小計	2 品種	1 品種	3 品種	
小麦	○		シラネコムギ	昭和 62 年度～
		○	しゅんよう	平成6年度～
		○	ユメセイキ	平成 13 年度～
		○	フウセツ	平成 14 年度～
		○	ハナマンテン	平成 18 年度～
	○		ゆめかおり	認定品種 平成 22 年度～ 奨励品種 令和3年度～
		○	ゆめきらり	平成 25 年度～
	○		東山 55 号(しろゆたか)	令和3年度～
	○		東山 53 号(ハナチカラ)	令和3年度～
小計	4 品種	5 品種	9 品種	
合計	6 品種	6 品種	12 品種	

ウ 大豆

	区分		品 種 名	採 用 年 度 等
	奨励	認定		
大豆		○	ナカセンナリ	奨励品種 昭和 53 年度 認定品種 平成7年度～
	○		ギンレイ	平成7年度～
		○	つぶほまれ	平成 15 年度～
		○	あやこがね	平成 16 年度～
	○		すずほまれ	認定品種 平成 24 年度～ 奨励品種 平成 28 年度～
		○	すずろまん	平成 19 年度～
		○	東山 231 号(すずみのり)	令和3年度～
合計	2 品種	5 品種	7 品種	

エ 小豆

	区分		品 種 名	採 用 年 度 等
	奨励	認定		
小豆	○		中納言	昭和10年度～
合計	1品種		1品種	

オ あわ

	区分		品 種 名	採 用 年 度 等
	奨励	認定		
あわ	○		あわ信濃2号	平成7年度～
	○		しなのつづ姫	平成19年度～
合計	2品種		2品種	

カ きび

	区分		品 種 名	採 用 年 度
	奨励	認定		
きび	○		黍信濃1号	昭和19年度～
	○		きび信濃2号	平成7年度～
合計	2品種		2品種	

キ そば

	区分		品 種 名	採 用 年 度
	奨励	認定		
そば	○		しなの夏そば	昭和54年度～
	○		信濃1号	昭和19年度～
		○	信州大そば	平成2年度～
		○	開田早生	平成14年度～
		○	タチアカネ	平成21年度～
		○	長野S8号	平成25年度～
		○	桔梗11号(長野S11号)	令和元年度～
合計	2品種	5品種	7品種	

	奨励	認定	奨励+認定
全合計	27品種	23品種	50品種